

乳房のシコリについて

坂本胃腸科医院 院長
坂本孝作 先生

平成 24 年度の太田市乳がん検診では、4 万 7000 人余りの対象者に対して 9623 人が受診し（受診率 20.3%）、16 例の乳がんが発見されました（乳がん発見率 0.17%）。単純な類推は適当でないかもしれませんが、仮に受診率 100%で対象者全員が受診したと仮定すると、残り 64 例の乳がんが発見された可能性があります。月に 1 度は自己触診を励行し、少しでも「変かな？」と思ったら積極的に医療機関を受診してください。今回は乳房のシコリについてお話しします。

まず視診です。乳房の左右差の有無、乳頭のヒキツレ、ビランの有無、皮膚の変色や萎縮の有無についてチェックしましょう。続いて触診です。左の手のひらと人差し指、中指、薬指の腹側で右乳房全体を丁寧に満遍なくチェックします。左側は右手で同様に触診します。発達した乳房は軟らかく弾力性のある腺葉が一様に密に触れます。その乳房の中に周りの乳房とは硬さの異なるシコリが無いチェックします。シコリを訴えて受診すると、医師の診察ではシコリの大きさ、硬さ、形、可動性、境界との明瞭度、シコリの上の皮膚のエクボ兆候の有無、皮膚をつまんだときの皮膚けんいん兆候の有無などがチェックされます。シコリには乳腺症、線維腺種、乳がん、炎症性肉芽腫などがありますが、触診のみでは鑑別は難しいのでマンモグラフィーや超音波検査などの所見と併せて判断します。乳がんの確定診断を下すためにはエコーガイド下の針生検が必要な場合もあります。また、触診ではシコリを触れない場合でも、マンモグラフィーの所見（微細、多形成の石灰化像の集ぞくや特徴的な分布の仕方、乳房の構築の乱れなど）で乳がんと診断される場合があります。30～40 代の乳腺組織の発達した女性では、マンモグラフィーよりも超音波検査の方が乳がんの検出感度が高いという報告もあります。26 年度からは太田市でも医療機関で受けられるマンモグラフィー併用の乳がん検診が本格的にスタートしています。検診の通知を受け取ったら、積極的に検診を受けましょう。早期発見の乳がんなら完治が可能なのですから。